

第 21 回観光統計の整備に関する検討会 結果概要

日時：令和 6 年 2 月 22 日（木）10:00～11:30

場所：ハイブリット開催（合同庁舎 2 号館 15 階 A 会議室及び teams）

要旨：

○「訪日外国人消費動向調査」の見直しの方向性について

- ・訪日外国人消費動向調査は母集団名簿がない中で調査をしており、人数に関しては出入国管理統計の出国者数データも利用し推計を行っているとのことだが、新たにクレジットカードのデータや人流データを活用するなど精度向上の方法を検討してはどうか。
- ・都道府県別に表章する必要性について改めて検討が必要。訪日外国人消費動向調査では日本全体の数字の推計に特化し、地域別にはクレジットカードデータなどで按分して算出を検討してはどうか。
- ・表章方法の考え方について、従来の国籍・地域別ではなく、例えば、旅行者の旅行志向など本質的な部分で表章するといった基本的な考え方の整理も必要ではないか。
- ・観光産業は成長分野であり、現行調査における国籍・地域別の目標精度の設定は、標準的な精度や他国の調査と比べて過剰スペックではないか。全体の目標精度と国籍・地域別の目標精度は分けて考えるべき。北米や東南アジアなどのブロック別に目標精度の設計を検討してはどうか。
- ・QR コードを用いた試行調査において、調査票を分割して最終的に統合することができれば、1 人当たりの回答時間を削減し、従来の調査票の設問数を保ちつつ、回答者の負担を軽減することができるのではないか。
- ・詳細なスケジュールについての設問の後に全体の消費額を尋ねるなど、回答者の思考回路と整合しないため回答負担が大きい可能性がある。回答者目線で調査票の構成の見直しを検討してはどうか。現場で同じ箇所を繰り返し質問があれば、そこに問題があるため、ぜひ現場の声を拾って、改善を検討するとよい。
- ・意識調査項目は、支出金額に係る設問と紐付いていることに利用価値があるため、切り離す必要はないと考える。新たに試行する QR コード調査にインセンティブをつけるべきか、又は既存調査のインセンティブを上げるべきか、コスト面を含めた検討が必要。
- ・標本設計における基準年については、毎年見直しでは特に変動が大きかった年の影響を大きく受けるため、例えば過去 3 年間平均を使用すること等を検討してはどうか。

- ・アメリカやヨーロッパでも QR コードの活用が進められているので、調査手法の見直しの中でぜひ取り入れて頂きたい。
- ・調査の負担を減らす意味では、部分的に音声入力を導入する可能性もあるのではないかな。
- ・訪日外国人消費動向調査を設計した時期は、インバウンドを増やそうとしていた時期であるためフルスペックになっていたが、状況や目的が変化したため、精度設計や調査手法を見直すなかで、最新テクノロジーなど DX の活用も検討してはどうか。

以 上